編集後記

風薫る五月、私達四年の最後の大事業、卒業論文もようやく油が乗り出した頃（とはいえ、そうしたある日、助手の岡崎さんに「今年の四年はどうしたの、ちっともボーラーやハンマー借りに来ないじゃないの、みんななにしてるの」などと、ハッパをかけられる。という番狂わせはともかく）、忙しい合間をぬって、汗をかいて必死の思い出かき集めた原稿を前に二日にわたる編集会議？の結果どうやら印刷屋さんからO.Kをとらえるとのが出来上りました。一つ今度は独創的なものを、と気負ってみたものの限られた予算にインスタント編集委員という具合の悪いカップル、せいぜい規格にはずれないように気をくばる程度にとどまってしまいましたが、一応型にはまっているのがいいのか悪いのか、「心配のような安心な話」です。

原稿集めに際し、先生方をせき立てて「先生、早く早く」と催促しつつ、あたかも日頃のレポート提出期限に悩まされる。我々生徒と先生の立場が一回転したような、ちょっとオツな気分を味わえました。

又、吉田先生の原稿に、見知らぬ筆跡が加わっているのを発見して「きっと奥様がお手伝いなさったのネ」と楽しく勝手な想像をさせていただきました。この7月に広島大へ転勤なさる吉田先生にこの欄を借りて、私達の感謝と拍手をお送りして、送別の気持をお伝えしたいと思います。

今度の編集では、特筆すべき努力は致しませんでしたが、表紙カットには少しばかり工夫をこらしたつもりです。編集と合せてご批評をおきかせ下さい。

なお、この「お茶の水地理」の事ですが、二三年前からすでに赤字つづきとなっています。研究室の意見としては、卒業時に千円徴収し、十年間は今迄通り全員にお送りし、それ以後は希望者だけにお送りするということですが、他に名案がございましたらどうぞお聞かせ下さい。

最後に忙しい中、原稿をおよせ下さいました方々に心からお礼申し上げます。又、式先生の原稿をこちらの手違いでお載せ出来なかった事を深くおわび致します。

編集委員

（秋元、草間
斉藤、前波）